

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

26.02.03

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application:

2002年 4月18日

出 願 番 号
Application Number:

特願2002-116250

[ST.10/C]:

[JP2002-116250]

出 願 人
Applicant(s):

松下電器産業株式会社

REC'D 25 APR 2003

WIPO

PCT

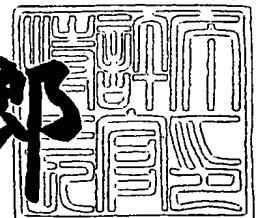
PRIORITY
DOCUMENT

SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH RULE 17 (1a) OR (b)

2003年 4月 8日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3024645

【書類名】 特許願

【整理番号】 2903240062

【提出日】 平成14年 4月18日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04M 1/02

【発明者】

 【住所又は居所】 静岡県浜松市元城町 2 1 6 番地の 1 8 株式会社 松下
通信静岡研究所内

 【氏名】 鈴木 進也

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目 3 番 1 号 松下通信
工業株式会社内

 【氏名】 鈴木 エミ

【特許出願人】

 【識別番号】 000005821

 【氏名又は名称】 松下電器産業株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100105647

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 小栗 昌平

 【電話番号】 03-5561-3990

【選任した代理人】

 【識別番号】 100105474

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 本多 弘徳

 【電話番号】 03-5561-3990

【選任した代理人】

 【識別番号】 100108589

 【弁理士】

【氏名又は名称】 市川 利光

【電話番号】 03-5561-3990

【選任した代理人】

【識別番号】 100115107

【弁理士】

【氏名又は名称】 高松 猛

【電話番号】 03-5561-3990

【選任した代理人】

【識別番号】 100090343

【弁理士】

【氏名又は名称】 栗宇 百合子

【電話番号】 03-5561-3990

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 092740

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0002926

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 電子機器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 第 1 の筐体と第 2 の筐体とを軸受部を中心に折畳み自在に構成すると共に、前記第 1、第 2 のいずれか一方の筐体の正面側、裏面側にそれぞれ互いに対向する放音孔を形成し、この放音孔の位置にスピーカを取りつけたことを特徴とする電子機器。

【請求項 2】 前記第 1、第 2 のいずれか他方の筐体の正面側に、前記第 1、第 2 の筐体を互いに折畳んだ状態で前記放音孔に対向する透孔を形成した請求項 1 記載の電子機器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、PDA、携帯電話機、簡易型携帯電話機（PHS（登録商標））などの電子機器に関する。

【0002】

【従来の技術】

一般に、PDA、携帯電話機、簡易型携帯電話機（PHS（登録商標））などの電子機器は、携帯に便利のように、図 4～図 6 に示すように、表示器 14 を取り付けた第 1 の筐体 11 とキーボード 15 を取り付けた第 2 の筐体 12 とを互いに軸受部 13 によって回動自在に枢着し、第 1、第 2 の筐体 11、12 を互いに折畳式にすることが多い。そして、このように折畳式にした場合には、第 1、第 2 の筐体 11、12 を互いに折畳んだ状態でも、着信音が十分に大きく外部に発せられるようにするために、着信音を発するスピーカ 16 を、第 1、第 2 の筐体 11、12 を互いに折畳んだ状態で外側を向くように取り付ける必要があり、例えば、図 6 に示すように、第 1 の筐体 11 の表示器 14 を有する面とは逆の面に放音孔 17 を形成し、この放音孔 17 に対向するように第 1 の筐体 11 に着信音を発するスピーカ 16 を取り付けるようにしている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、この種の電子機器では、近年、薄型化が急速に進展しており、しかも、表示器 1 4 は大型のものが要求されており、第 1 の筐体においては、その内部の空間が著しく少なくなり、スピーカ 1 6 自体の駆動も困難になって、良好な特性を得られないという問題があった。

【0 0 0 4】

本発明は、以上のような従来の問題に鑑みてなされたものであり、簡単な構成で常に良好な特性を確保できるすぐれた電子機器を提供することを目的とするものである。

【0 0 0 5】

【課題を解決するための手段】

本発明の電子機器は、第 1 の筐体と第 2 の筐体とを軸受部を中心に折畳み自在に構成すると共に、第 1、第 2 のいずれか一方の筐体の正面側、裏面側にそれぞれ互いに対向する放音孔を形成し、この放音孔の位置にスピーカを取りつけた構成とした。

【0 0 0 6】

この構成により、スピーカからの音声を筐体の正面側、裏面側の両方から放出することができ、筐体を開いた状態、折畳んだ状態、いずれの状態でもスピーカからの音声を効率よく聴取することができるという作用を有する。

【0 0 0 7】

また、本発明の電子機器は、第 1、第 2 のいずれか他方の筐体の正面側に、第 1、第 2 の筐体を互いに折畳んだ状態で放音孔に対向する透孔を形成した構成とした。

【0 0 0 8】

この構成により、第 1、第 2 の筐体を互いに折畳んだ状態で第 1、第 2 の筐体の間に隙間がなくても、第 1、第 2 の筐体が互いに対向する放音孔、透孔を通して連通されることになり、スピーカが効率よく駆動され、十分な音声は外部に放出され得るという作用を有する。

【0 0 0 9】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態について図面を用いて説明する。

図 1 は、本発明の一実施の形態における電子機器の斜視図、図 2 は、同電子機器の折畳んだ状態の斜視図、図 3 は同電子機器の折畳んだ状態の要部断側面図である。

【0010】

本発明の一実施の形態における電子機器は、図 1 ～図 3 に示すように、正面側に表示器 4 を取り付けた第 1 の筐体 1 と、同じく正面側に各種キー 5 を取り付けた第 2 の筐体 2 とを備え、第 1、第 2 の筐体 1、2 は、軸受部 3 によって互いに回動自在に枢着されている。

【0011】

そして、第 1 の筐体 1 の裏面側、すなわち、第 1、第 2 の筐体 1、2 を互いに折畳んだ図 2 の状態で外側に位置する面側には、第 1 の放音孔 6 が形成され、この放音孔 6 に対向する第 1 の筐体 1 の内側には、着信音、通話音などを発するスピーカ 7 が取り付けられている。そして、更に、スピーカ 7 に対向して、第 1 の筐体 1 の正面側にも放音孔 8 が形成され、この放音孔 8 に対向する第 2 の筐体 2 の正面側にも透孔 9 が形成されている。すなわち、放音孔 8 と透孔 9 とは、第 1、第 2 の筐体 1、2 を互いに折畳んだ図 2 の状態で、図 3 に示すように、互に対向するように構成されている。

【0012】

なお、図示していないが、放音孔 6、8、透孔 9 には、それぞれ適宜音を通す網状の保護膜、飾り板などが取り付けられている。

【0013】

本実施の形態における電子機器は、以上のように、第 1 の筐体 1 の正面側、裏面側にそれぞれ放音孔 8、6 を形成し、これらの放音孔 8、6 に対向する位置に着信音、通話音などを発するスピーカ 7 を取り付けるとしており、第 1 の筐体 1 が薄型化し、表示器 4 が大型化して第 1 の筐体 1 内部の空間が小さくなっても、スピーカ 7 からの音声を第 1 の筐体 1 の正面側、裏面側にそれぞれ形成した放音孔 8、6 より効率よく放出することができ、常に、良好な音響特性を確保す

ることができるという利点を有する。特に、本実施の形態では、第1の筐体1の正面側、裏面側にそれぞれ放音孔8、6を形成しているため、第1、第2の筐体1、2を互いに開いた状態（図1の状態）、閉じた状態（図2の状態）いずれの状態でも、スピーカ7からの音声を放音孔8、6を通して直接聴取することができる、大きな音で分かりやすく聴取することができるという利点を有する。

【0014】

また、本実施の形態によれば、第2の筐体2の正面側の放音孔8に対向する位置に透孔9が形成されており、したがって、第1、第2の筐体1、2を互いに折畳んだ状態（図2の状態）で、第1、第2の筐体1、2間に隙間がなかった場合でも、第1、第2の筐体1、2内の空間が放音孔8、透孔9を通して互いに連通することになり、実質的にスピーカ7の背面に位置する空間が大きくなってスピーカ7が効率よく駆動されるという利点を有する。そして、このことは同時に、スピーカ7の音響特性を向上させることにつながり、良好な音響特性を確保できるという作用を有する。

【0015】

尚、本実施の形態では、スピーカ7を放音孔6側に向けて取り付けられているが、本発明は、これに限定されず、放音孔8側に向けて取り付けてもよい。また、本実施の形態では、スピーカ7、放音孔6、8を第1の筐体1に設け、透孔9を第2の筐体2に設けているが、スピーカ7、放音孔6、8を第2の筐体2に設け、透孔9を第1の筐体1に設けてもよいことは言うまでもないことである。

【0016】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、スピーカからの音声を筐体の正面側、裏面側の両方から放出することができ、筐体が薄型化され、内部の空間が少なくなっても、筐体を開いた状態、折畳んだ状態、いずれの状態でもスピーカを効率よく駆動することができ、スピーカからの音声を効率よく聴取することができるという利点を有する。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の一実施の形態における電子機器の斜視図

【図 2】

本発明の一実施の形態における電子機器の第 1、第 2 の筐体を互いに折畳んだ状態の斜視図

【図 3】

本発明の一実施の形態における電子機器の第 1、第 2 の筐体を互いに折畳んだ状態の要部断側面図

【図 4】

従来の電子機器の斜視図

【図 5】

従来の電子機器の第 1、第 2 の筐体を互いに折畳んだ状態の斜視図

【図 6】

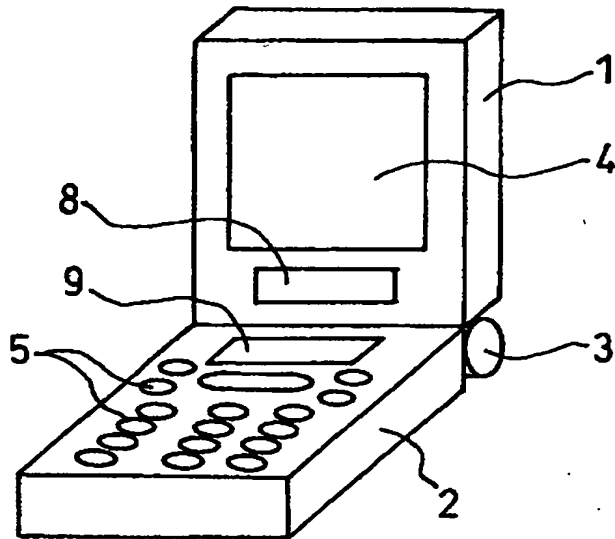
従来の電子機器の第 1、第 2 の筐体を互いに折畳んだ状態の要部断側面図

【符号の説明】

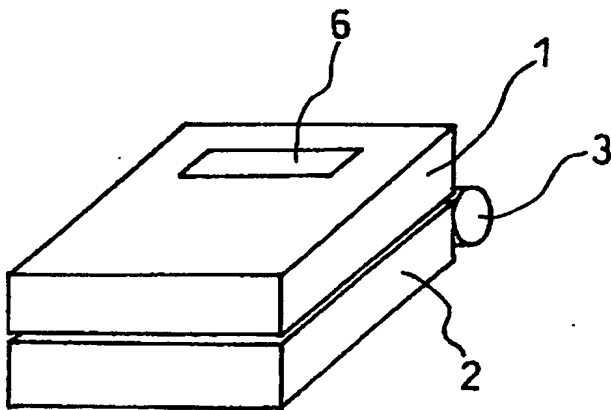
- 1 第 1 の筐体
- 2 第 2 の筐体
- 3 軸受部
- 4 表示器
- 5 キー
- 6 放音孔
- 7 スピーカ
- 8 放音孔
- 9 透孔

【書類名】 図面

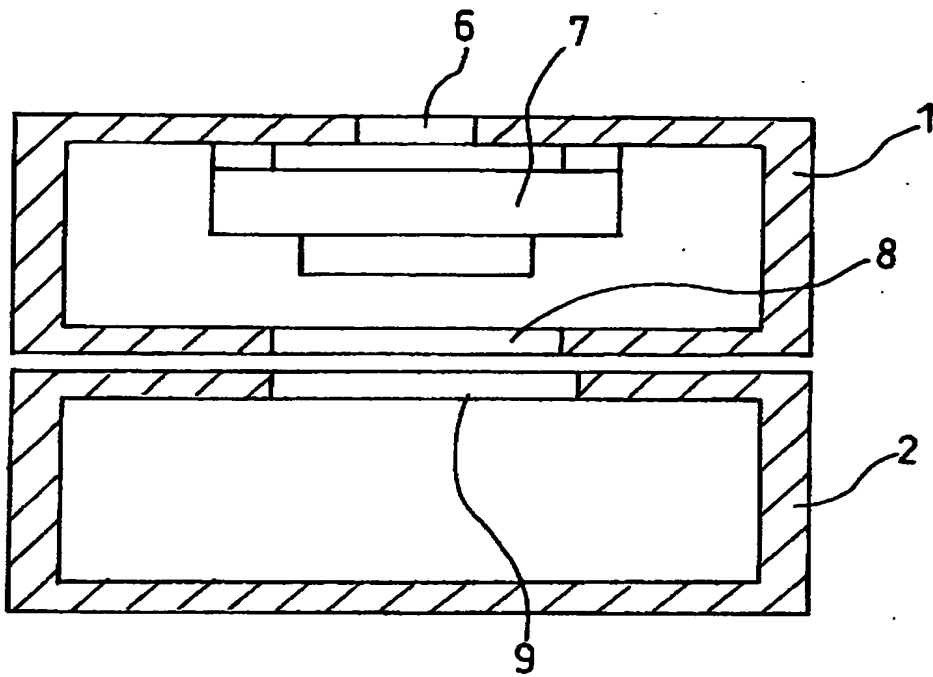
【図 1】



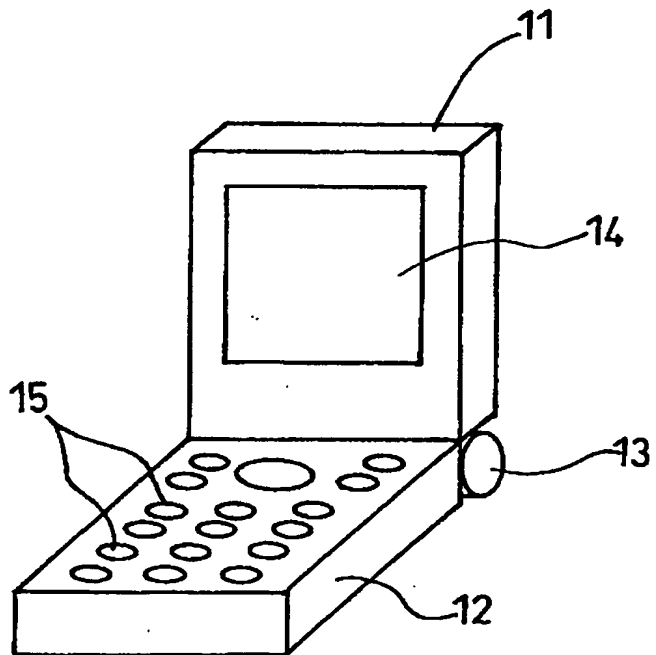
【図 2】



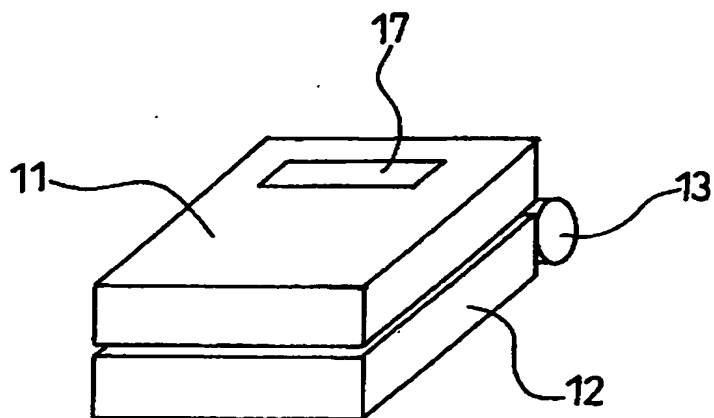
【図 3】



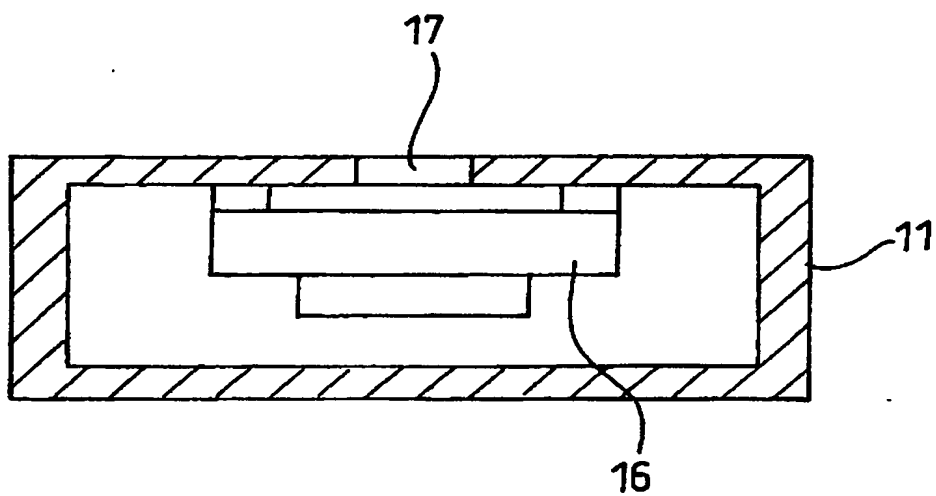
【図 4】



【図5】



【図6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 筐体が薄型化し、その内部空間が少なくなっても十分な音響特性が得られる折畳式の電子機器を提供する。

【解決手段】 第 1 の筐体 1 と第 2 の筐体 2 とを軸受部 3 を中心に折畳み自在にし、第 1、第 2 のいずれか一方の筐体（1 又は 2）の正面側、裏面側にそれぞれ互いに対向する放音孔 8、6 を形成する。そして、この一方の筐体（1 又は 2）の放音孔 8、6 の位置にスピーカ 7 を取り付けると共に、他方の筐体（2 又は 1）の正面側における第 1、第 2 の筐体 1、2 を互いに折畳んだ状態で放音孔 8 に対向する位置に透孔 9 を形成する。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005821]

1. 変更年月日	1990年 8月28日
[変更理由]	新規登録
住 所	大阪府門真市大字門真1006番地
氏 名	松下電器産業株式会社